

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100212		
法人名	有限会社 美大		
事業所名	グループホーム大河	ユニット名	グループホーム大河
所在地	宮崎市古城町長田5911番地		
自己評価作成日	平成28年9月18日	評価結果市町村受理日	平成28年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokonsaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&id=4590100212-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年10月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桜を愛でる春、蟬のコーラスの賑わい、「山粧う」秋、そして静かに「山眠る」、四季を傍に感じられる所に、グループホーム大河はあります。
私達は年中ウッドデッキに集まり、お日様の恵みを頂きます。トンボが羽を休めに来たり、チョウや小鳥があいさつして通り過ぎます。
入居者様の体調の変化時は、ホームの正看護師や薬剤師が24時間対応し、訪問歯科医は、職員会議や運営推進会議にも出席し、アドバイスをしています。
入居者T様は、余命3カ月の診断を受け入所されましたが、3年6か月経た今も元気に生活されています。
私達は、入居者様の安穏な日常を見つめ、一日の疲れを癒し、夢の世界へと誘うメンバーの一員「布団」です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、山や田畑に囲まれ四季折々の風景を感じながら暮らせる環境にあり、小道を歩きながら自然と地域の人と触れ合う機会がある。代表者は、職員の資格取得に協力的で、働きながら学べるよう勤務体制を整えている。その働きやすさから離職者も少なく、定着率の良い職場である。また、職員の得意な分野を最大に引き出し、利用者のホームでの生活が安心して穏やかなものになるよう支援している。全職員が理念を理解し、明るく優しい対応を心掛け、残存機能が生かされるケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	グループホーム大河	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各自始業前に、掲示している理念を読み上げ、理解し、日々実践の中で取り組んでいる。また、経営者が職員会議に出席し、理念に則ったサービスができているかを確認している。		全職員で意見を出し合い作り上げた理念を共有し、毎朝の朝礼で唱和している。理念について話し合ったり、見直しを行うなど、実践に向けた取組をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	古城保育園から様々な行事の招待を受けている。また、自治会にも加入し、市民清掃は入所者様と共に毎回参加し、地域の方との交流の機会を創出するよう努めている。日々の交流を通じ、地域の方々から花や野菜など頂くことも多い。		地域の行事に積極的に参加し、顔なじみの関係を築いている。ホームの敬老会に地域の人を招いたり、ボランティアや中学生の職場体験を行うなどの交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方にホームを見て頂き、認知症の方への理解や接し方を伝えたり、介護などの相談にのり、地域の方が困ることのないよう支援している。また、地域の方を職員として積極的に採用していく方針である。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催する家族会・運営推進会議で入居者様の状況や運営状況を報告している。ご家族が意見や苦情を話しやすい雰囲気づくりに努め、その中で出た意見や要望については職員全員で共有し、早急に対応している。改善・解決した事は必ず次の会議で報告している。		運営推進会議には、自治会長や民生委員・市の職員・家族など多くのメンバーが集まり、ホームの報告や話し合いをしている。ホームの設備・職員体制、災害対策、空調の設定温度について理解と周知を得るための対策案など、意見をサービス向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に地域包括支援センターや介護保険課等を訪問し、解らない事があれば相談をしてアドバイスを頂いている。また、市が行う研修に積極的に参加し、意見交換や協力関係の構築に努めている。		ケアプランや介護保険について、市の担当窓口に出向き相談するなど、顔なじみの関係を築いている。研修を通してホームの取組を伝え、意見やアドバイスを受けるなど、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で身体拘束に関する内部研修を繰り返し行い、協議し、拘束のないケアを実践している。玄関等は7時から21時まで施錠せず、敷地内入り口も24時間オープンである。		身体拘束についての研修に参加し、職員会議や勉強会で報告している。また、内部研修を行い、具体的な行為や弊害について理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	グループホーム大河	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修などの外部研修で学んだ内容を職員会議で報告し、全職員が情報を共有し虐待防止に努めている。また、理念にも「個人の尊厳」を謳い、虐待防止の徹底を図っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や後見制度について外部研修や職員会議で学んでいる。被後見人の方も入居されており、体験を通して、ご家族の皆様へ説明し、相談があれば支援できる体制を整えている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にはできる限り、ご家族だけでなくご本人にも見学を勧め、雰囲気を感じて頂いている。契約・解約時は疑問点・不明な点の質問を受け、十分な説明をし、内容を理解して頂く時間を作っている。契約の改定については家族会で協議し、納得頂いてから変更の手続きをしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族との信頼関係を築き、話しやすい雰囲気づくりを心がけている。運営推進会議や日頃の会話の中で出た意見や苦情は、私共の教科書と理解し話し合い、改善を行っている。		利用者との日頃の会話や家族の来訪時には職員から声掛けを行い、意見や要望を聞いて運営に反映している。尿臭の改善について意見があり、トイレの扉を変更している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議には必ず経営者が参加し、職員の意見を聞く機会を設けている。また、日頃から話しやすい雰囲気を作り、より良いグループホームにする為、経営者、管理者、職員が話し合い、運営に反映している。		月1回の職員会議は、合同会議・ユニット会議と段階を踏んで行い、それぞれの場で意見や提案がなされている。会議に参加しやすいよう時間を変更したり、駐車場の整備や勤務体制の変更など、意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、勤務時間や休日の要望を受け入れ、資格取得への研修に参加できるような勤務シフトを組んでいる。実績や経歴を考慮し、手当てで処遇している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員の経歴や興味ある分野などに応じた研修に派遣し、偏りがないように全職員が参加できるようにしている。新人職員については、ベテラン職員が相談・教育担当としてマンツーマンでつくようにしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	グループホーム大河	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設当時から医療機関系列のグループホームと毎月相互訪問などの交流を図り、意見交換を行っている。また、グループホーム連絡協議会研修や、他グループホーム管理者同士が集まる懇談会に参加し、サービスの質の向上に力を入れている。			
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族と会話を重ねる機会を多く設けることで、早い段階で不安なことや要望を聞き、入居者様同士の触れ合いや、職員との信頼関係を築けるよう心がけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活の様子等を、面談で詳しく聞くことにしている。会話の中からご家族の要望や希望を聞き、ご家族の思いを受け止め、気軽に相談していただく雰囲気づくりに努め、信頼関係を構築している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態をよく観察し、ご本人やご家族と協議した上で、必要な訪問看護・訪問マッサージ・往診などの個個人の身体状況に応じたサービスを取り入れ、サポートしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様の思いをしっかり聞き、その人の得意分野で把握する。深い経験に尊敬の念を持ち、料理や裁縫などの生活の知恵の教えを実践し、ホーム生活の質を高めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の誕生日や、ホームの行事にはご家族をお誘いし、一緒の時間を過ごすようにしている。日頃の会話の中で、行きたい場所、やりたいことなどを聞き、ご家族と一緒に実現できるように努力している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人、知人の面会が多い。入居者様との会話の中で、行きたい場所、馴染みの場所、会いたい人を把握し、これまでの生活が継続できるように支援をしている。今も、行きつけの美容院に行かれている方もおられる。		本人の行きたい場所や行きつけの店など、これまで親しんできたものを継続できるよう支援に努めている。以前に住んでいた所やよく食べに行った店などに職員が同行している。家族や友人等が来訪した際には、心地よく過ごせるよう配慮している。	

自己	外部	項 目	自己評価	グループホーム大河	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や相性を考慮し、席の配置や声掛けを工夫し、楽しく過ごせるように心がけている。交流が苦手な方には、職員がパイプ役として良好な関係が持てるように努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、電話連絡や入院先、自宅に訪問し、現在の状況を聞き、悩みなどの相談に乗るようにしている。また、新しい場所でもその方が落ち着いて過ごせるよう、入居時の状態や対処方法を詳しく文書にまとめ、関係者に伝えている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から何でも話し合える関係がつかれるように努力している。日常の会話の中から聞き得た希望や意向については、ご家族の協力のもと、ご本人の思いが実現できるよう取り組んでいる。		利用者一人ひとりと話す機会を多く持つようにし、意向や思いを把握するよう努めている。また、センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を利用し、情報収集や評価を行い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様やご家族、また入所される前に利用されていた施設や地域包括支援センターから、ご本人の状態を聞き、これまでの暮らし方や生活環境を把握し、その延長上に日常生活を送られるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別日誌には、日々の細かな情報を記録し、全職員で情報を共有している。職員会議やケアマネージャー・管理者・職員で日々話し合い、アセスメントに反映させている。支援方法等も看護師や薬剤師も交えて話し合い、サポートしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様毎の担当者を中心に会議で細かく検討・工夫を重ね、入居者様、ご家族の希望を汲めるように努めている。できない部分をカバーし、残存能力がより活かせる介護計画を作成している。		本人・家族の意向や希望を確認し、担当者会議でそれぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。担当職員は月1回モニタリングを行い、現状の把握や介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌に、日頃の状態やプランに対しての実践状況を記入するようにしている。どのようにしたらプランが実現できたか、あるいはできなかったかを話し合い、モニタリングに記入し、今後の実践や計画の見直しに活かしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	グループホーム大河	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族の現在の状況を把握し、経営者を交え全職員で話し合い、研修や情報誌で得た介護技術や新たな発想も取り入れ、その時々ニーズに応じた支援ができるように取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	古城保育園や他グループホームとの交流も盛んで、ボランティアの訪問も多く、入居者様も喜ばれている。ホーム近くに小学校があり、登下校時に入居者様が手を振ると、大きな声で挨拶し、手を振り返してくれるので、いつも楽しみにされている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人・ご家族が選ばれ、受診時には、正確な情報が伝えられるように、情報提供書により、詳しい状況を伝えている。また訪問歯科医は、職員会議にも出席し、アドバイスをしてくれる。		本人・家族の希望するかかりつけ医を継続している。協力医が2週間隔で訪問診療しており、適切な医療が受けられるよう支援している。受診の付き添いは家族対応になっているが、状態が正確に伝わるよう情報提供書を渡し、結果を書面でもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者様の少しの状態の変化にも注意し、変化があればすぐにホームの看護師に状態を伝え、指示を受けるようにしている。また、訪問看護師には現在の状態や処置内容を申し送りノートに記入をしてもらい、全職員で情報を共有している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入居者様のアセスメントシートを渡し、状態を詳しく伝えるようにしている。定期的に面会に行き、病院関係者との連携を図っている。退院時にはホームで生活するうえでの配慮すべき点や、入院時の状態を書面でもらうようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて説明を行い、理解をいただいている。病気の進行や体調の変化、また重度化、終末期など折々で医師、ご家族と密に話し合い、入居者様、ご家族の希望に沿った支援ができるようにしている。		重度化や看取りについて、契約時に指針や入院中の取り扱いなどの説明をしている。その時になったら再度説明し、同意をもらっている。状態の変化に合わせて話し合いを行い、家族・主治医・関係職員等で支援に取り組んでいる。これまでの看取りの実績は20件ほどある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は消防署主催の救命研修に必ず参加し、対応方法を学んでいる。また会議で看護師から緊急時の対応の説明や、AEDを備え、使用練習も定期的に行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	グループホーム大河	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の計画のもと、あらゆる災害を想定した避難訓練を毎月行っている。また、大淀第5消防団から応援協定をいただいている。消防ホースを備え、消火に十分な水圧のある、ホーム横の取水口の田所有者からの了承も得ている。		防火訓練を年2回、避難訓練・災害時訓練を月1回、日中・夜間を想定して実施している。避難場所や災害時のライフラインの確保などの対策をしている。消防団等に周知はしているが、訓練はほぼ利用者・職員のみで行っている。	火災を始め、地震及び水害時の避難訓練や対策をしているが、地域との協力体制が十分とはいえない。地域住民や消防団等が訓練に参加するなどの協力体制を築き、より安心な災害対策となるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導やオムツ交換は小声で伝えたり、各人の自立度や身体状況に配慮し、きめ細やかな対応で、プライバシーを尊重している。		職員同士で話すときは個人の名前を出さないようにしている。排せつの声掛けや誘導は他の人にわからないよう配慮している。車いすのポケットに準備しているオムツは見えないよう袋に入れてある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の職員や他の方との会話の中から、ご本人の希望を察知し、思いに添えるよう心がけている。また、日常生活では、ご本人の意思確認をし、反応を見極めてからサポートしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が協力し合い、調理や掃除等の業務中でも、常に、入居者様の希望や思いを優先し、対応している。各人のその日の体調を考慮して、その人のペースで生活が送れるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型、服装などの昔からの好みを把握し、全職員に情報が伝わるよう、アセスメントに記録し、サポートしている。着替えの際は、ご本人に服の確認をしてから着ていただいている。また、美容師免許を持つ職員が、各人の希望に応じたカットや毛染めを定期的に行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決まっているが、入居者様の希望を柔軟に取り入れ、食事を楽しんでいただけるよう配慮している。職員も同じテーブルで楽しく会話をしながら食事をし、残存能力保持の為に、準備や後片付けも一緒に行っている。		一人ひとりの力に合わせて食材の準備や調理、片づけを職員と一緒にしてもらい、同じテーブルで会話をしながら食べている。食材の買い物に利用者が同行することもあり、どんな料理にするかななどを相談し、食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療機関の管理栄養士に相談し、メニューを作成し、おかゆ、刻みなど一人ひとりにあった料理形態で対応している。水分量も細かく記録し、少ない方には、お茶ゼリーを作るなど工夫して、一日1000cc以上は摂取していただくようにしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	グループホーム大河	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医よりブラッシングの方法や、各人の口腔状態に応じたケアのアドバイスを頂いている。毎食後、口腔ケアを行い、磨き足りない方については、磨き直しをして清潔保持をしている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人の排泄パターンを把握し、自立でトイレの排泄ができるように誘導、声掛けを行っている。排泄サインを見逃さないように観察し、早めの対応を行っている。入居前はオムツを使用されていた方が、現在トイレで排泄されるようになった事例もある。		排せつチェック表にて、その方にあった誘導や声掛けをし、失禁を減らす工夫をしている。夜間はおむつ対応になっていても、日中はトイレでの排せつを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質食材や、水分摂取に気を配り、ヨーグルトを毎日食べていただき、腸の活動を促すようにしている。また、体操や散歩など体を動かすレクリエーションを多く取り入れ、便秘解消を図っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望があればいつでも入浴できるようにしている。希望の時間帯がある、介助者が同性でないと恥ずかしいなど、様々なニーズに、チームワークで臨機応変に対応している。		入浴は毎日実施しており、1日おきに入浴できるよう配慮している。希望があれば時間に関係なく夜間でも入浴が可能である。入浴を拒む場合は声掛けを工夫したり、時間を置いて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様それぞれの生活習慣があるので、就寝時間は決めていない。夜間不安が強くなり休まらない方には、飲み物等を用意して、職員が隣に座り会話をし、安心して休んでいただけるように心掛けている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様ごとに薬剤情報を作成し、薬の効果や副作用をわかりやすくしている。投薬の際は、顔写真入りの投薬袋で、サンプルと照らし合わせて2人で確認して誤薬の防止を図っている。経営者の薬剤師は24時間連絡可能で、不明な点はいつでも確認できる。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔からの生活歴や日頃の生活の中で、できる事だけでなく、支援すればできそうな事を見つけ、喜びある日々が過ごせるように、さりげなく職員が支援している。嗜好品等ご本人の楽しみ事は介護計画にも反映させている。			

自己	外部	項 目	自己評価	グループホーム大河	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話の中でご本人の希望を把握し、ご家族の協力も得て、外出の機会を多くつづけている。地域のイベント参加のお誘いも多く、病院主催の夏祭りでは病院職員にも介助等の協力をしていただいている。		一人ひとりの希望やその日の気分に合わせて、散歩や買い物に出掛けられるよう支援している。外食や遠方への外出は家族の協力を得ている。海に行って潮の香りを感じたいとの希望があり、出掛けられるよう準備中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望に添えるよう、支援している。お金の管理ができる方は、ご家族や関係者に了承を得て、所持していただいている。管理ができない方は職員がさりげなくサポートして、買い物を楽しんでいただくようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望で電話をかけたい場合は、職員が支援しながら居室で電話をかけられるようにしている。また、手紙を出したい方は、なるべくご本人に書いて頂き、思いが伝わるようにしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、地域の方から頂いた花や、入居者様が散歩途中に集めた草花を飾り、四季を感じて頂くようにしている。それぞれウッドデッキや居室で花を育てられており、職員と一緒に水やりを行っている。刺激のない穏やかな環境の創出に努めている。		オープンな対面キッチンから料理の音や匂いがし、時間の流れや生活感を与えている。移動のスペースを広く確保しており、明るさや温度は居心地よく過ごせるよう設定している。壁には行事で撮った写真や手作りの作品などを飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの席の配置は、入居者様同士の相性を考慮して座って頂いている。椅子以外にもソファが置いてあり、仲の良い方と一緒にくつろがれ、会話が弾むよう工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族の写真や、馴染みの品をご家族と相談して持ち込んでもらい、心は常に家族と共にあるという、安心感、一体感の元に生活されている。		全室南向きのウッドデッキ付きで、一人ひとりの好みでプランターに花や野菜を育てている。居室には使い慣れた家具や冷蔵庫、健康グッズなどが持ち込まれ、その人らしい居室づくりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室・トイレ・洗面所等、入居者様の目線の高さで大きく表示し、場所がわかるように配慮している。居室の家具等の配置についても、入居者様ができるだけ自分の力で行動できるように工夫している。			